

地学オリンピック支援委員会 第6回議事録

2013年1月26日
委員長 田中 義洋

期 日：2013年1月12日（土）18：00 - 20：00

場 所：日本地質学会事務局

出席者：田中 川村 浅野 川勝 小泉 芝川 久田 渡来 （出席者8名で委員会は成立）

欠席者：浅野 平田

議 題

1. 平成24年度委員会活動報告
2. 平成25年度委員会活動方針
3. 第5回日本地学オリンピック予選の試験問題評価
4. その他

詳 細

1. 平成24年度委員会活動報告

平成24年度の活動に関して、1) 委員会開催状況、2) 広報活動、3) 地学オリンピック日本委員会活動への支援について報告を行うとともに、次年度への課題などを検討した。

1) 委員会開催状況

平成24年度は、1月・4月・9月の合計3回、委員会を実施した。4月と9月の委員会では日本地学オリンピック試験の作題委託および試験問題評価について審議した。このうち、4月の議事録はメーリングリストでの議論をまとめたものである。

[確認事項]

今後も必要に応じてメーリングリストを活用して議論を行う。

2) 広報活動

HPは、地学オリンピックに関する最新情報をできるだけタイムリーに掲載するように更新に努めた。地学オリンピックの活動紹介を兼ねた「写真で見る軌跡ーアルゼンチン大会への道ー」や委員会議事録などの掲載も行った。

HP以外にも、地質 News 誌「地学教育のページ」への寄稿や地質情報展での地学オリンピック紹介ポスターの展示などを行った。

3) 地学オリンピック日本委員会活動への支援

主な支援内容は2つあり、第6回国際地学オリンピック時に掲載する地質図の手配と地球にわくわく自由研究コンテスト審査員要請受諾であった。

手配した地質図は、国際大会期間中、代表選手が作成した日本の地質紹介ポスターとともに展示された。展示会は生徒のみのイベントだったことは残念だったが、高校生たちの国際交流には一役買っていた。

地球にわくわく自由研究コンテストに関して、今回、本委員会へは審査員の要請のみであっ

た。これに関して、久田理事から、応募件数や審査状況の報告がなされた。

〔意見・確認事項〕

応募者にとってはコンテストの認知度が高いほどメリットがある一方で、応募数が大幅に増えると審査員確保が問題となることや同じ内容で再応募可能とする場合の基準を設ける必要があるとの意見が出された。

当面は応募者 100 名を目標とする方針を確認した。

2. 平成 25 年度の委員会活動方針

おもに今年度の委員会開催日時を検討した。

〔意見・確認事項〕

これまでと同様、本年度も NPO 法人地学オリンピック日本委員会の活動を支援することを確認した。また、次回の委員会は 5 月 19 日（日）に開催する予定である。

3. 第 5 回日本地学オリンピック予選の試験問題評価

2012 年 12 月 16 日に実施された第 5 回日本地学オリンピック予選に関して、試験問題に目を通しながら、意見交換を行うとともに、講評の取りまとめ方法について確認した。

〔意見・確認事項〕

今回の予選に関する意見や感想には次のようなものがあつた。

- ・ 募集要項には「地学基礎」と記してあつたが、現在の高校 2・3 年生は「地学 I」を履修しているため、範囲に関する記述を工夫したほうがよいのではないか。むしろ、この試験でどのような力をみたいのかという観点を明記してもよいのではないか。
- ・ 地学オリンピックを認知してもらうまでは、予選は地学基礎に徹しても良いのではないか。
- ・ これまでの参加賞の中で、第 4 回の電卓は最も人気が高いようである。
- ・ 予選の試験問題に関して、高校の先生方に意見を聞くと良いのではないか。

今後、試験問題の講評取りまとめに向け、問題として適切かどうかの適正と地学基礎の範囲としての適正とをそれぞれ検討することを確認した。まずは、1 月中にメーリングリストを通じて箇条書きなどで各委員の意見を募り、3 月中旬を目途に最終的な講評をまとめることを確認した。

4. その他

1) 地学オリンピック紹介ポスターの展示について

本年度から、地質情報展に加えて、「小さな科学者のつどい」会場でもポスターを展示し、チラシや過去問を配布する方針を決めた。今後、理事会に支援委員会から要望を提出する予定。

2) 2016 年第 10 回国際地学オリンピック三重県大会について

NPO 法人地学オリンピック日本委員会は認定 NPO 法人化へ向けて、年会費有料の会員を募集することが予想される。会員へ何を提供できるか、その意見やアイデアを提案し、支援を行っていくことを確認した。まずは、NPO 法人地学オリンピック日本委員会に対して、「高校生を対象とした地学オリンピックのキャラクター募集」を行うことを提案する。

以上

(文責 渡来)